

設置期間	2022年4月～2025年3月			
研究課題名	家族と愛の研究			
(英 文)	Family and Love Studies			
研究目的の概要 (400字程度)	<p>コロナ禍での外出自粛により、夫婦間・親子間の不和・虐待や、一人親家庭の経済的困窮があらためて浮き彫りになったように、今日、「一对の親が子どもを献身的に養育する家庭」すなわち「核家族」を標準として行われる政策や事業は、多くの齟齬や歪みを生じさせている。女性の社会進出や、人々の性的指向の多様化、さらには人工的生殖の増加に伴い、家族の「形」は著しい変化を被りつつあるにもかかわらず、我が国の政策や立法が想定する家族の「イメージ」のほうは、「異性どうしの両親と子ども」という旧来のスタンダードに固執しつづけているのである。家族の実情とイメージのあいだのこうしたギャップは、たとえば夫婦別姓の法制化や、民法の嫡出推定規定の緩和をめぐる議論を停滞させ、ひいては、少子化や非婚化といった社会問題の遠因ともなっている。</p> <p>本研究班は、「家族」をとりまく法的、制度的、歴史的、社会文化的、医学的、思想的文脈を横断しつつ、また、他の国々や文化の実情に照らした比較研究を忘れることなく、このギャップを埋めるための新たな超域的パラダイムの確立を目指す。その際、本研究班では、その特色となりうるひとつの問題系をアプローチの導線に据える。「愛」（夫婦愛、家族愛、親子愛——とりわけ子の親にたいする愛）の問題系である。愛を媒介としてセクシュアリティと生殖および次世代育成を一体化させる「核家族」＝「愛の共同体」という価値観は、それを生み出し、それによって支えられることを望んだ西欧近代の社会構造や生産様式の変貌とともに、その実質的な役割を終えたようにみえる。にもかかわらず、それは夫婦別姓反対派の唱える「家族の絆」のような道徳的価値に姿を変えて、今日も生き存えている。その原動力は何であり、いかなる言説装置がそれを支えているのだろうか。これらの問題の解明は、件のギャップの解消を妨げる知的制止を解くことに資するものと思われる。</p>			
研究会開催予定等	年9～10回 土 14:00-17:00			
No.	班長・副班長	氏 名	区分	所属
1	班長	富山 一郎	私立大学	同志社大学グローバルスタディーズ研究科
2	副班長	立木 康介	所内	
3	副班長	直野 章子	所内	
4		酒井 朋子	所内	
5		藤原 辰史	所内	
6		木下 千花	学内（法人内）	大学院人間・環境学研究科
7		丸山 里美	学内（法人内）	大学院文学研究科
8		神田 育也	学内（法人内）	大学院人間・環境学研究科
9		中井 亜佐子	国立大学	一橋大学大学院言語社会研究科
10		楡井 誠	国立大学	東京大学大学院経済学研究科
11		小門 穂	国立大学	大阪大学大学院文学研究科
12		沈 恬恬	国立大学	東京大学社会科学研究所
13		新藤 麻里	国立大学	東京大学社会科学研究所
14		内田 利広	私立大学	龍谷大学文学部
15		小川 公代	私立大学	上智大学外国語学部
16		熊谷 哲哉	私立大学	近畿大学経営学部
17		鈴木 洋仁	私立大学	神戸学院大学現代社会学部
18		長瀬 正子	私立大学	佛教大学社会福祉学部

No.	班長・副班長	氏名	区分	所属
19		花田 里欧子	私立大学	東京女子大学現代教養学部
20		日高 由貴	私立大学	大阪城南女子短期大学総合保育学科
21		菅野 優香	私立大学	同志社大学グローバルスタディーズ研究科
22		DISTEFANO, Anthony	外国機関	カリフォルニア州立大学フラトン校
23		神原 文子	その他	元神戸学院大学